新春
インタビュー

パラリンピック視覚柔道 銅メダル

瀬戸勇次郎選手

×

福岡市身体障害者福祉協会

清水邦之会長

祝 東京パラリンピック2020 視覚障害者柔道66キロ級 銅メダル獲得 瀬戸勇次郎選手

パラリンピック初出場にして、メダルを獲得した瀬戸選手の素顔に迫る。

清水　瀬戸選手には、東京パラリンピック大会2020の視覚障害者柔道においての銅メダルの獲得、おめでとうございます。今の率直なお気持ちをお聞かせください。

瀬戸選手　パラリンピック出場代表の決定は、今年5月のアゼルバイジャンでの国際大会において、競合の選手との結果差で選ばれました。その相手はパラリンピックで5大会連続でメダルを獲得された藤本聰選手です。代表の決定は、自分の取り組みで決めたのではなく、藤本選手の敗退によるものでしたので、喜びに浸るような感覚はありませんでした。実感したのは帰国後、視覚障害者柔道連盟から内定を頂いた時です。これまで目標としてきたパラリンピック出場は、練習をし続けてきた結果として得られたのだと、とても嬉しかったです。

清水　パラリンピックまで、数ヵ月しかない時期だったのでハードだったのではないですか。

瀬戸選手　はい、世界大会の結果は9位でしたので、残り3か月でどのようにしてメダルを取りに行くかを担当のコーチとミーティングし、海外の選手の動画分析を徹底的にする日々でした。

清水　パラリンピック初出場でプレッシャーはありませんでしたか。

瀬戸選手　国際ランキングは19位でしたのでプレッシャーはなく、メダル獲得は難しいだろうと思っていました。ただ、藤本選手がリオ大会まで5つもメダルを獲得されてましたので、何としても自分がメダルを獲得せねばという気負いはあったと思います。

清水　銅メダルを獲得された3位決定戦ですが、相手選手に先に技ありを取られましたね。ヒヤリとしましたが、その時のお気持ちはいかがでしたか?

瀬戸選手　相手選手の得意技にかかりましたので、〝やらかした〟と思いました。投げられた瞬間、ひょっとすると一本取られたかと思いましたが、半身を残せました。その後は、冷静に試合を運ぶことができたので、内股すかしで一本を取れました。

清水　そうでしたか。では、印象に残っている試合がありましたらお聞かせください。

瀬戸選手　印象に残っている試合

は、敗者復活戦でのモンゴルの選手との試合ですね。自分の中で、納得のいく柔道が取れたと思っています。5月の国際大会で同じ選手に負けていたので、どうやって勝てるのかを、担当コーチと動画を繰り返し観て作戦を練りました。そして、徹底的に防御することにしました。それは、闘いの基礎となるのは相手との組手なんですが、試合中組み直すのは反則なんですね。ところが、外国人選手は上手に組み直すんです。そこで、あくまでもルールに則って、試合運びを自分の形に持っていくという強い意思を持って臨むことにしました。それがうまくはまり、相手選手が反則を取られる試合運びに持って行くことができると、怯む相手に自分に有利な組手を取れ、技ありと大内刈りで一本勝ちすることができました。一番最高の試合展開だったと思っています。

清水　ところで、視力はどの程度ありますか。

瀬戸選手　裸眼で生活していて、右が0.07、左が0.05で、矯正すると0.1ない程度ですね。視野は正常値なので日頃の生活に問題はありません。ただ、まぶしい光が苦手で、正面から差す日差しを受けると随分歩きづらいです。

清水　先天性ですか？

瀬戸選手　はい、先天性の弱視です。色覚に異常がありました。

弱視は不利？晴眼者と同じように汗を流して

清水　そもそも柔道を始めたきっかけは何ですか。

瀬戸選手　4歳から柔道を始めました。2つ上の兄が先に柔道をしており、それを見て自分もしたくなり、地元のスポーツ少年団に入団しました。小中高校と柔道をし続け、高校の時に、視覚障害者柔道連盟の礎眞一先生のお誘いで、視覚障害者の柔道を始めることになりました。

清水　では、それまでは晴眼者と試合をしていたんですね。

瀬戸選手　今でも一般の柔道大会へ出ていますし、晴眼者と練習しています。

清水　小中高校の時、なかなか勝てなかったとのことですが、柔道にお

東京パラリンピック2020 表彰式

東京パラリンピック2020 試合の様子

いて視力が弱いことは不利なんでしょうか。

瀬戸選手　自分はあまり気にしていませんが、視覚障害者柔道は、最初から相手と組手をして始めます。一方、普通柔道は組手争いをしたり、相手の足の運び方にも気を付けなければなりませんので、見えにくいことは不利なのかもしれません。

自分の力が発揮できる場を見つけ出してほしい

清水　パラリンピックに出場したいと思ったのはいつ頃からでしたか。

瀬戸選手　高校を卒業した後、静岡で開催された視覚障害者柔道の全国大会で優勝したことがきっかけです。周囲からパラリンピックへの出場をはやし立てられ、自分も目標にすることにしました。ところが、その後出場したシニアの大会で、パラリンピック5大会連続メダリストの藤本聰選手に敗北しました。試合中何もできませんでしたので、パラリンピックの壁の高さを感じました。パラリンピックへ出場することと、藤本選手に勝つことは同等と思い、やるからには勝ちたいと強く思い、パラリンピックを本気で目指すことになりました。その時に藤本選手に頂いた言葉が「要努力」です。今でも耳に残っていて、一層稽古に励むようになりました。

清水　これからの目標をお聞かせください。

瀬戸選手　視覚障害者柔道を通して学んだことは、自分の力を発揮することが出きる得意分野を見つけることの大切さと、同じ視覚障害者柔道の選手と出会えたことで、日常生活の困りごとをお互いに克服することができたことです。将来は、特別支援学校の教員になって、2024年のパリパラリンピックを目指しながら、後輩や子供たちにスポーツと切り離しても、弱視の自分の経験や見てきたことを通して、自分が活躍できる場を見つけることの大切を伝えたいです。また、日常生活の中でどのようなことに困っているか情報共有ができるネットワークの大切さも伝えていきたいです。

視覚障害者柔道はそれほど人気が高い競技ではありませんので競技人口や、観て下さる方が増えるよう頑張っていきたいと思います。

清水　今回は、東京パラリンピック2020視覚障害者柔道で銅メダルを獲得された糸島市出身の瀬戸勇次郎選手に、現在在籍されている福岡教育大学の柔道場でインタビューをいたしました。視覚に障がいがある中で、柔道と出会いし続けたことで、視覚障害者柔道へ本格的に進まれたことやライバルの存在と、「要努力」の言葉が一層の励みになったことなど、興味深い話を聞くことができました。終始背筋を伸ばし、はきはきと話すひと言一言が若々しく、真摯な姿勢に好感が持てました。

将来は特別支援学校の教師として教鞭をとりたいとのこと、障がいのある多くの人たちへ勇気と希望を与えてもらえることを期待したいと思います。これからも文武両道で頑張って、目標を達成してもらうことを切に願っています。

本日はありがとうございました。

【瀬戸勇次郎選手プロフィール】

視覚障害者　柔道66キロ級
東京パラ2020　銅メダリスト

先天性の目の病気（色覚異常の一種）。正面からの光をまぶしく感じるほどの弱視。柔道との出会いは4歳。2つ上の兄から勧められ、地元の少年団に入団する。小中高と柔道を続け、修悠館高校時代に、団体戦の全国大会である金鷲旗高校柔道大会へ出場。これを機に視覚障害者柔道連盟の礎眞一氏からスカウトされる。翌年、全日本視覚障害者柔道大会（66キロ級）で、パラリンピック3大会金メダリストの藤本聰選手を破り脚光を浴びる。現在、福岡教育大学で、特別支援学校教諭を目指しながら柔道部で汗を流す。